

ANNOUNCEMENTS

I. The 41st Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics, 1996

The 41st Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics was held on October 23–25, 1996 at the Sapporo Educational and Culture Center, Sapporo-city. Professor Kiyotaro Kondo, Department of Public Health, Hokkaido University School of Medicine, acted as president at the Annual Meeting. A total of 470 members participated in the meeting.

The academic program consisted of two symposia, six luncheon seminars and 227 oral presentations by active members.

Professor Tadao Orii, Chubu Women's College, who was the winner of the Japan Society of Human Genetics Award for 1996, gave the memorial lecture entitled "Molecular basis of Zellweger syndrome, β -ketothiolase deficiency and mucopolysaccharidoses." The following memorial lecture was given by one of the winner of the 1996 award for encouragement of younger human geneticists "Molecular pathogenesis of nonketotic hyperglycinemia" by Dr. Shingo Kure, Dept. Biochem. Genet., Tohoku Univ.

Emeritus Professor Toshiyuki Yanase, Univ. Kyushu, gave the special lecture for the 40th anniversary of the Society entitled "Human genetics—Past, present, and future."

Professor Mark Lathrop, University of Oxford, gave the special lecture entitled "Genetic approaches to cardiovascular diseases and diabetes." Professor Mutsuo Sekiguchi, Dept. Biol. Fukuoka Dental College, gave the special lecture for education "DNA repair defect in mutagenesis and carcinogenesis." The symposium I entitled "Recent advances in chromosome research" was chaired by Professor Michihiro Yoshida, Chromosome Research Unit, Hokkaido Univ., in which 4 papers were presented and discussed. The symposium II entitled "Common diseases: Genetics and its application to diagnosis and prevention" was chaired by Professor Hideo Hamaguchi, Dept. Med. Genet., Univ. of Tsukuba, in which 4 papers were presented. The following six luncheon lectures were given: 1) "Apoptosis of hepatocytes in genetic diseases" by Dr. Fumio Endo, 2) "Molecular genetics of essential hypertension" by Dr. Ituro Inoue, Univ. Utah, 3) "Ethical, legal and social issues in human genetics" by Professor Hiraku Takebe, Dept. Radiat. Genet., Kyoto Univ., 4) "Intra-body evolution of pathogenic viruses with special references to HIV and HCV" by Professor Takashi Gojobori, National Institute of Genetics, 5) "Development and morphological plans of mammalian viscerocranium" by Dr. Shigeru Kuratani, Dept. Morphogenesis, Kumamoto Univ., 6) "A new technology for cancer diagnosis—telomerase" by Professor Mitsuo Oshimura, Tottori Univ. and Dr. Kazuma Oyashiki, Tokyo Medical University.

Abstracts of the above lectures, symposia, seminars and 227 oral presentations will be printed in this issue (Vol. 42, No. 1, 1997) of the *Jpn. J. Human. Genet.*

The Meeting of the Board of Directors of the Japan Society of Human Genetics was held on October 22 at the Conference Hall of the Hokkaido University, Sapporo-city. The main agenda of the meeting consisted of the following:

1. Recommendation of honorary members of the Japan Society of Human Genetics.
2. Nomination of the president of the 43rd Annual Meeting (1998) of the Society.
3. The budget of the Society for fiscal year 1997.
4. Supporting members and raise of funds for the Society.

5. Amendments of the Law on Maternal Health Care.
6. On the genetic counseling system in Japan.
7. On the site for the 10th International Congress of Human Genetics.

Reports were prepared on the following subjects:

1. Report of the Selection committee of the society awards.
2. Numerical changes in the society membership.
3. Financial report and audit.
4. Arrangements for the 41st and 42nd Annual Meeting.
Report of the following committees; Editorial board meeting, the Committee for qualification system for medical geneticists, the Committee for qualification system for clinical cytogeneticists, the Committee for review of the rules of the Society, the Committee for human genetics teaching.
5. Report on the 6th Medical Genetics Seminar (Sept. 13-15)
6. Report on the 3rd Clinical Cytogenetics Seminar (Aug. 31-Sept. 1)
7. Report on the 9th International Congress of Human Genetics held in Rio de Janeiro, Brazil (Aug. 18-23, 1996)

Subsequently, the council of the Japan Society of Human Genetics was held at the Hokkaido University Centennial Hall to discuss the agenda proposed by the Board of Directors.

The general assembly of the Japan Society of Human Genetics was called on October 24 at the Sapporo Educational and Culture Center. The subjects drafted by the original forms at the conference. Professor Akio Asaka, Department of Health Science, Yamanashi Medical College was nominated to preside at the 43rd Annual Meeting which will be held in Kofu in the fall of 1998.

The agenda and reports presented at the General Assembly are essentially the same as those of the Board of Directors Meeting described above and given in more detail below (in Japanese).

II. 日本人類遺伝学会第41回(1996)大会記事

会場：札幌市中央区北1条西13丁目 札幌市教育文化会館

会期：平成8(1996)年10月23日(水)～10月25日(金)

大会会長：近藤喜代太郎教授(北海道大学医学部公衆衛生学教室)

発表：特別講演：Genetic approaches to cardiovascular disease and diabetes. Mark Lathrop (University of Oxford)

座長：近藤喜代太郎(北海道大・医・公衆衛生)

教育講演：DNA修復異常と発癌。関口睦夫(福岡歯科大)

座長：笹月健彦(九州大・生医研・遺伝学)

人類遺伝学会創立40周年記念特別講演：人類遺伝学の過去・現在・未来。柳瀬敏幸(九州大名誉教授)

座長：三輪史朗(沖中記念成人病研)

学会賞受賞記念講演：先天代謝異常症の分子病態学的研究, Zellweger症候群を中心に。折居忠夫(中部女子短大)

座長：多田啓也(NTT東北病院)

学会奨励賞受賞記念講演：非ケトーシス型高グリシン血症の病因及び病態解明に関

する研究。呉 繁夫（東北大・医・病態代謝）

座長：多田啓也（NTT 東北病院）

シンポジウム I：染色体のトピックス

座長：吉田迪弘（北海道大・理・染色体）

シンポジウム II：Common diseases の遺伝と対策への応用

座長：浜口秀夫（筑波大・人類遺伝）

ランチョンセミナー：

遺伝性肝細胞障害とアポトーシス。遠藤文夫（熊本大・医・小児科）

座長：小林邦彦（北海道大・医・小児科）

本態性高血圧の分子遺伝学。井ノ上逸朗（Howard Hughes Med. Inst., Univ. Utah）

座長：羽田 明（北海道大・医・公衆衛生）

人類遺伝学における倫理社会問題。武部 啓（京都大・医・放射線遺伝）

座長：藤木典生（福井医大・名誉教授）

病原性ウイルスの体内進化—エイズウイルスと C 型肝炎ウイルスを中心に—。

五條堀孝（国立遺伝研・生命情報研究センター）

座長：宝来 聡（国立遺伝研・人類遺伝）

頭蓋骨の形態と発生のプラン。倉谷 滋（熊本大・遺伝発生研・形態発生）

座長：山村研一（熊本大・遺伝発生研・発生遺伝）

がんの新しい診断法。押村光雄（鳥取大・医・細胞工学），大屋敷一馬・大屋敷純子（東京医大・内科）

座長：池内達郎（東京医歯大・難治研）

一般演題 227 題

第 1 日（10 月 23 日）

近藤大会長による開会の辞に引き続き、午前中は 3 会場で一般演題の発表があった。昼食時にはランチョンセミナーが行われ、また臨床遺伝学認定医制度委員会、遺伝医学セミナー委員会、教育推進委員会が開かれた。午後の前半は一般演題が発表され、後半はシンポジウム I が行われた。夜、遺伝カウンセラー制度準備会懇話会が開かれた。

第 2 日（10 月 24 日）

午前中は 3 会場で一般演題の発表があった。昼休みに編集委員会が開かれた。午後は総会議事、学会奨励賞と学会賞の授賞式が行われ、呉 繁夫氏による学会奨励賞受賞講演、折居忠夫氏による学会賞受賞講演があった。ついで人類遺伝学会創立 40 周年記念特別講演、教育講演、特別講演が行われた。直後に恒例の写真撮影があり、会場をサッポロファクトリーに移して恒例の懇親会が盛大に催された。

第 3 日（10 月 25 日）

午前中、3 会場にて一般講演があった。午前中に日本学術会議・遺伝医学研究連絡委員会が開かれた。昼食時にはランチョンセミナーが行われた。午後の前半は一般演題が発表され、後半はシンポジウム II が行われた。また、臨床細胞遺伝学認定士制度委員会、臨床細胞遺伝学セミナー実行委員会が開かれた。最後に近藤大会長の閉会の辞をもって全日程を終了した。

夜には、公開シンポジウム「DNA と社会の接点を求めて」が開かれた。

3日間を通して、大会への会員参加は443名、会員外の当日参加者は27名（うち招待講演者9名、シンポジスト8名、当日会員10名）、合計470名であった。一般演題数は227題、広汎な研究領域で活発な討論が行われた。

理事会（本年度第2回）

日時：1996(平成8)年10月22日(火) 14:30~16:30

場所：北海道大学学術交流会館第2会議室（札幌市北区北15条西7丁目）

出席者：中込理事長、笹月（編集委員長）・多田・新川（臨床遺伝認定医制度委員長）・浜口・三輪各理事、池内・黒木各監事、近藤（喜）（大会会長、人類遺伝学教育推進委員会委員長）、古山臨床細胞遺伝学認定士制度委員会委員長、安河内（会計）・西村（編集）・中堀（庶務）各幹事

I. 報告事項（詳細については評議員会の議事録を参照）

1. 日本人類遺伝学会賞の選考結果について（中込）
2. 庶務報告：会員異動状況、第17期日本学術会議登録団体申請、名簿作成について（中堀）
3. 1995(平成7)年度会計報告および1996(平成8)年度中間報告（安河内）
4. 1995(平成7)年度会計監査報告（池内、黒木）
5. 第41回(1996年度)大会の準備状況、公開シンポジウムの開催について（近藤）
6. 第42回(1997年度)大会の準備状況（古山）
7. 委員会報告
 - 1) 編集委員会報告（笹月、西村）
 - 2) 臨床遺伝学認定医制度委員会（新川）
 - 3) 臨床細胞遺伝学認定士制度委員会（古山）
 - 4) 会則等検討委員会（中込）
 - 5) 教育推進委員会（近藤）
8. 第6回遺伝医学セミナーの報告（新川）
9. 第3回臨床細胞遺伝学セミナーの報告（池内）
10. 第9回(1996年)国際人類遺伝学会議報告（三輪）

II. 協議事項

1. 名誉会員の推薦（中込）
2. 第43回(1998年度)大会会長および開催地（中込）
3. 1997(平成9)年度予算案（安河内）
4. 維持会員の募集について（安河内）
5. 優生保護法の改正について（三輪）
6. 遺伝カウンセリングをめぐる環境の整備について（中込、黒木）
7. 第10回(2001年)国際人類遺伝学会の開催地について（三輪）
8. 役員選挙と選挙管理委員会の設置について（中込）
9. 研究成果公開シンポジウム、国際会議開催についての科学研究費補助金について（安河内）
10. 中日友好病院図書館より交換の申し出について（安河内）

評議員会

日 時：1996(平成8)年10月22日(火) 17:00~19:00

場 所：北海道大学百年記念館, 大会議室(札幌市北区北15条西7丁目)

出席者：50名

I. 報告事項

1. 近藤大会会長より第41回大会の開催と準備状況について報告があった。
2. 中込理事長より, 名誉会員の西村秀雄先生(京都大学名誉教授, 83歳)が1995年10月17日にご逝去された旨の報告があり, 黙祷を捧げた(本誌41巻2号, 267ページ, 1996に追悼文掲載)。
3. 各理事の担当事項の一部変更について報告があった(変更後の担当については, 本誌41巻3号, 343ページ, 1996を参照)。
4. 庶務報告: 最近1年間の会員異動状況(資料1)が報告された。ついで, 明年は評議員, 理事等の改選の年にあたること, それまでに会員名簿を更新すべく作業中であることが報告された。
5. 会計報告: 1995(平成7)年度会計報告(資料2)および1996(平成8)年度会計中間報告(資料3)があった。引き続き1995(平成7)年度会計報告の監査結果が監事により報告され, 諒承された。
6. 委員会報告
 - 1) 編集委員会: 笹月委員長より本誌の発行状況, 論文の投稿および受理状況などが報告された。
 - 2) 学会賞選考委員会: 1996年5月12日に開催された委員会における審議により, 学会賞1名, 奨励賞2名の受賞が決定したことが報告された(詳しくは本誌41巻3号, 348ページ, 1996を参照)。
 - 3) 臨床遺伝学認定医制度委員会: 新川委員長より, 1995年(平成7)年度収支決算の報告があり, あわせて昨年度行われた第2回認定試験, および今年度の第3回試験(10月22日)の状況などが報告された。日暮委員より, 認定医制度協議会における認定医についての基本的な考え方などの説明があった。
 - 4) 臨床細胞遺伝学認定士制度委員会: 古山委員長より1995(平成7)年度収支決算, 経過措置による第2回の認定結果ならびに研修施設の認定状況などが報告された(本誌41巻3号, 344ページ, 1996を参照)。
 - 5) 会則等検討委員会: 中込理事長より会則等検討委員会から答申された会則改正案についての説明があり, 諒承された(資料5, 資料6)。
 - 6) 教育推進委員会: 近藤委員長より医師国家試験ガイドラインに関して, 学会として行った提案などについて報告があった。
7. 日本学術会議: 三輪日本学術会議遺伝医学研究連絡委員会委員長より, 遺伝医学研連の活動状況が報告された。また, 第16期は1997(平成9)年で終了するため, 庶務幹事を通じて第17期の登録申請を行い, 学術団体として登録されたことが報告された。
8. 1997(平成9)年度大会準備状況報告: 第42回大会は1997(平成9)年10月15日(水)~17日(金)に, 神戸国際会議場で開催予定である旨, 古山次期大会会長(兵庫医科大学

遺伝学教室)より報告があった。

9. 第6回遺伝医学セミナー：福嶋遺伝医学セミナー実行委員会委員長より、1996年9月13日(金)～15日(日)の3日間、北九州プリンスホテルで開かれ174名の参加者を得たことなど概要が報告された。また、委員と事務局の交代が報告された。
10. 第3回臨床細胞遺伝学セミナー：池内臨床細胞遺伝学セミナー実行委員会委員長より、1996年8月31日(土)～9月1日(日)の2日間、千葉市幕張で開かれ、171名の参加があり盛会であったことなど、概要が報告された。
11. 第9回国際人類遺伝学会議報告：三輪理事より、1996年8月18日(日)～23日(金)にリオデジャネイロで開催された国際人類遺伝学会議についての報告があった。
12. 古庄評議員の評議員辞任について報告があった。

II. 協議事項

1. 根井正利博士(ペンシルバニア州立大, 分子進化遺伝学研究所所長)を名誉会員に推挙することの提案があり、諒承された。
2. 第43回大会(1998年度)大会会長を浅香昭雄教授(山梨医科大学保健学第二講座)にお願いしたい旨の提案があり、諒承された。続いて浅香第43回大会会長より挨拶があった。
3. 1997(平成9)年度予算案(資料4)が協議され、大会補助費の50万円から100万円への増額を含め、原案どおり諒承された。
4. 維持会員の募集について協議した。
5. 優生保護法の改正に関する学会声明について討議がなされた。遺伝相談・出生前診断に関する委員会で継続して審議していただくこととなった。
6. 中込理事長より遺伝カウンセリングをめぐる環境の整備について提案があり、「遺伝カウンセラー制度検討委員会」が黒木監事を委員長として発足することになった。
7. 第10回(2001年)国際人類遺伝学会の開催地について、日本に立候補を期待する声が寄せられているとされるので、笹月理事を中心に引受の可能性を検討していただくこととした。
8. 理事を2名増員し8名とすること、来年の選挙より実施する旨の提案があり諒承された。
9. 1997(平成9)年度に予定している役員改選にあたり、池内(委員長)、安河内、黒木、中堀の4名に選挙管理委員を委嘱したい旨の提案があり、諒承された。

総 会

日 時：1996(平成8)年10月24日(木) 13:00～13:30

場 所：札幌市教育文化会館大ホール(札幌市中央区北1条西13丁目)

議 題：

I. 報告事項

1. 近藤大会会長より第41回大会運営についての状況報告があった。
2. 中込理事長より、本学会名誉会員の西村秀雄博士のご逝去の報告があった。
3. 各理事の担当事項の一部変更について報告があった。
4. 庶務報告：会員異動状況、名簿作成について報告があった。

5. 1995(平成7)年度会計報告および1996(平成8)年度会計中間報告があった。
6. 1995(平成7)年度会計監査報告があり、承認された。
7. 委員会報告：編集委員会、学会賞選考委員会、臨床遺伝学認定医制度委員会、臨床細胞遺伝学認定士制度委員会、教育推進委員会について報告があった。会則等検討委員会の報告に基づき提案された会則改正案が承認された。
8. 日本学術会議：遺伝医学研連の活動状況が報告された。
9. 第42回大会(1997年度)の準備状況について古山次期大会会長より報告があった。
10. 第6回遺伝医学セミナーの報告があった。
11. 第3回臨床細胞遺伝学セミナーの報告があった。

II. 協議事項

1. 本学会名誉会員に、根井正利博士を推挙することの提案があり、諒承された。
2. 第43回(1998年度)大会は浅香昭雄教授(山梨医科大学保健学第二講座)を大会会長として甲府市で開催する旨の提案があり諒承された。
3. 1997(平成9)年度予算案(資料6)について協議され、現案どおり承認された。
4. 維持会員の募集について。
5. 優生保護法の改正に関する学会声明について、遺伝相談・出生前診断に関する委員会で継続して審議することとなった。
6. 中込理事長より遺伝カウンセリングをめぐる環境の整備について提案があり、黒木監事を委員長として「遺伝カウンセラー制度検討委員会」を発足させることが承認された。
7. 第9回国際人類遺伝学会議と第10回(2001年)国際人類遺伝学会の開催地についての報告があった。第10回(2001年)国際人類遺伝学会の開催地については、日本に立候補を期待する声が寄せられているとされるので、笹月理事を中心に引受の可能性を検討していただくこととした。
8. 1997(平成9)年度に予定している役員改選にあたり、池内(委員長)、安河内、黒木、中堀の4名に選挙管理委員を委嘱した。
9. 理事を2名増員し8名とすることが諒承された。来年度の選挙より実施することとなった。

(庶務幹事：中堀 豊)

[資料1] 日本人類遺伝学会・年度別会員数の推移(過去5年間)

	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年8月
	91.12	92.12	93.12	94.12	95.12	96.8
普通会員	1,258	1,214	1,347	1,613	1,753	1,813
国内普通会員(学生)	0	0	0	0	0	0
名誉会員	16	15	15	13	14	14
維持会員	3	3	3	2	2	3
機関会員	80	79	79	72	73	72
寄贈・交換	9	9	9	9	9	9
合計	1,366	1,320	1,453	1,709	1,851	1,911

海外 会 員	普通会員	35	31	34	34	39	49
	名誉会員	11	11	11	11	11	11
	寄贈・交換	12	11	13	13	13	13
	合 計	58	53	58	58	63	73
総合計		1,424	1,373	1,511	1,767	1,914	1,984

[資料 2] 平成 7 年度会計報告

収 入		支 出	
前年度繰越金	3,505,990 円	雑誌刊行費	7,585,132 円
会 費	12,009,850	雑誌発送費	637,003
雑誌売上代	424,812	雑誌編集費	300,000
論文掲載料	350,900	大会補助費	500,000
抄録利用料	12,360	事 務 費	2,615,671
預 金 利 子	35,742	会議・旅費	494,230
文部省科研費	990,000	人 件 費	600,000
日本医師会助成金	200,000	IGF 会費	210,840
		評議員・理事・理事長選挙費	579,514
		次年度繰越金	4,007,264
計	17,529,654 円	計	17,529,654 円
(実収入	14,023,664 円)	(実支出	13,522,390 円)

[資料 3] 平成 8 年度中間会計報告

収 入		支 出	
前年度繰越金	4,007,264 円	雑誌刊行費	4,472,045 円
会 費	11,111,900	雑誌発送費	667,465
雑誌売上代	204,242	雑誌編集費	300,000
論文掲載料	1,847,540	大会補助費	500,000
抄録利用料	9,888	IGF 会費	130,074
預 金 利 子	17,954	事 務 費	1,234,256
広 告 代	40,000	会議・旅費	458,256
文部省科研費	1,030,000	人 件 費	550,000
計	18,268,788 円	計	8,312,096 円
(実収入	14,261,524 円)		

[資料 4]

平成9年度予算案

収 入		支 出	
前年度繰越金	4,000 千円	雑誌刊行費	7,600 千円
会 費	11,000	雑誌発送費	600
雑誌売上代	400	雑誌編集費	350
論文掲載料	600	大会補助費	1,000
預金利子その他	30	IGF 会費	100
文部省科研費	900	事 務 費	2,700
日本医師会助成金	200	会議・旅費	500
		人 件 費	600
		次年度繰越金	3,680
計	17,130 千円	計	17,130 千円

[資料 5]

日本人類遺伝学会会則

- 第一条 本会は日本人類遺伝学会と称する。
- 第二条 本会は人類の遺伝に関する研究の発達と知識の普及を図ることを目的とする。
- 第三条 本会は事務所を東京都文京区湯島1丁目5番45号東京医科歯科大学難治疾患研究所遺伝疾患研究部門におく。
- 第四条 人類の遺伝に関する研究に従事し、またはこれに関心を有するもので、評議員の推薦を得たものは本会に入会することができる。
- 第五条 本会に入会しようとするものは所定の申込み用紙に必要事項を記入して本会の連絡先；東京都文京区本駒込5-16-9（〒113）日本学会事務センターに提出する。
- 第六条 会員は個人会員、機関会員、および維持会員とする。個人会員は名誉会員および普通会員とする。年会費として普通会員と機関会員は金7,000円、維持会員は金100,000円以上を前納するものとする。会員で会費滞納1年におよぶ者は会員の資格を失うものとする。名誉会員は総会の承認を経て会長が委嘱する。名誉会員の会費は徴収しない。
- 第七条 本会は会誌として The Japanese Journal of Human Genetics を発行して会員に配布する。
- 第八条 本会は毎年1回総会を開く。総会は名誉会員および普通会員によって構成され、会務の報告、会則の改正、役員を選定、ならびにその他の議事を行う。但し臨時総会を開くことができる。
- 第九条 本会は年1回以上講演会を開き、会員の研究発表と討論を行う。
- 第十条 本会に次の役員をおく。理事長1名、評議員、理事、幹事それぞれ若干名、監事2名。
- 第十一条 理事長は本会を代表し、会務を総括する。理事は庶務、渉外、会計などの業務を分掌する。
- 第十二条 主な会務は評議員会の審議を経て総会の承認または決定をうることを要する。
- 第十三条 評議会、理事、幹事、監事の任期は2年とする。理事長の任期は4年とし、重任を

認めない。

第十四条 役員の選出は選挙管理委員会を設けて次の方法によって行う。評議員は全国を北海道・東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の6地区に分け、各地区ごとに国内在住の普通会員の互選による。地区内の普通会員15名またはその端数ごとに評議員1名を選出するものとする。他に20名以内に限り理事長が評議員を委嘱することができる。理事および監事は評議員の互選による。理事長は評議員の投票により理事の中から選出する。幹事は理事長の委嘱による。

第十五条 理事長は理事会の議を経て編集委員長を委嘱する。編集委員長の任期は別に定める。

第十六条 理事長は評議員会の議を経て委員会を設置することができる。委員の任期は2年とし、重任は妨げない。委員長の任期は原則として4年を越えることはできない。

第十七条 本会の事務年度は1月1日より12月31日までとする。

(1996年10月24日 改正)

[資料6]

役員選出に関する内規

第1条 評議員の選挙権を有するのは前年度までに会員の資格を得ていた者とする。

第2条 評議員の被選挙権を有するのは前年度までに4年以上の会員歴を有する者とする。なお、評議員として本会の発展に貢献できることを示す研究業績をもつことが望ましい。

第3条 評議員の選挙において、定員を超える同数得票者が生じた場合は何れも当選とする。

第4条 理事の選挙において、定員を超える同数得票者が生じた場合の選出は理事長に一任する。

第5条 理事長の選出は投票数の過半数とし、最初の投票で過半数に達する者がいないときは、上位2名の決戦投票を行う。その結果同数となった場合は、初回の選挙において投票数の多かった者を当選者とする。

(1996年10月24日 改正)

役員の任期に関する申し合せ

役員の任期は選挙の翌年の1月1日から始まるものとする。但し、業務の引継ぎは大会会期中から開始してもよい。なお、当分の間、新理事、新評議員が決まる年には、第1回理事会は任期途中の現理事だけで開き、大会開催時に新理事と新評議員を加えて、業務の引継ぎをする。

(1996年10月24日 改正)

日本人類遺伝学会編集委員会議事録

日 時：1996年10月24日(木) 12:00~13:00

場 所：札幌市教育文化会館3階中会議室

I. 報告事項

1. 毎月編集委員長より、雑誌の刊行状況・投稿状況および編集委員を対象に行われたアンケート調査の結果が報告された。さらに、1) Journalの質および量の強化、2) 編集委員

- の刷新, 3) シュプリンガー・フェアラーク社による出版の検討等の課題が提起された。
2. 今年7月より活動している編集委員会内のワーキンググループが紹介され, 上記の3点についてもすでに討議を始めている旨説明があった。

II. 討議事項

1. 質および量の強化

編集委員長より, 迅速に出版することが投稿者にとっては大きな魅力であることから, 現在の季刊を隔月刊へ向け努力すべきと提案があった。隔月刊への発行を実現するためには投稿を促進すべきであり, そのためには年間最低1編の Original Article の投稿を編集委員各位に依頼したい旨の提案があった。

出席した編集委員からの意見には次のようなものがあった。

- ・海外の研究者に Journal の存在を知らしめるため, 海外への発送を促進すべきである。
- ・人類遺伝学の細目で科研費の支給を受けている研究者に論文の投稿をお願いしてはどうか。科研費採択の審査委員には, 採択の判断の一つとして当 Journal に論文をのせているかどうかを考慮にいらて頂きたい。
- ・編集委員に投稿論文のノルマを決めてはどうか。
- ・学会での発表時に, 座長によい発表については Journal に投稿するよう演者に勧めてはどうか。
- ・Impact factor を上げるため, 積極的に Journal に発表されている論文を引用すべきである。

このほか, 編集委員長より, 癌学会においては編集委員会内で編集委員の学会誌への投稿状況を公開している旨の説明が行われた。

2. 編集委員の刷新

編集委員長より, 投稿論文の内容の変化に対応するために編集委員会を一度解散し, 新たに委員を2年の任期に定めた上で選出する, という意見が提出された。歴代編集委員長の三輪/浜口委員ともに, 委員長原案に賛成した。

委員の交代に関する意見は次のようなものがあった。

- ・編集委員の数は, Journal の表紙に記載できる程度の数が妥当であろう。委員の選出にあたっては, 委員長の意向を重視すべきである。論文の査読に時間がかかりすぎたり, 査読対象論文が投稿されない分野を専門とする委員は除外すべきである。若手(中堅)の委員を増やすべきである。
- ・編集委員の任期終了後の再任は妨げないとの条項を付けてもよいのではないか。
- ・少数の経験豊富な編集委員が Journal の体裁などについて検討し, 論文の査読者については特定することなく, 若い研究者を含めて広く選んでもよいのではないか。

これらの意見も参考にした上で, 編集委員長が歴代の編集委員長とも相談した上で, 結論を出すことになった。

3. シュプリンガー・フェアラーク社への発行の委託

シュプリンガー・フェアラーク (Springer Verlag) 社に Journal の発行を委託した場合の条件・長短所について, 当社の担当者出席の上, 資料をもとに検討した。

具体的に提示されたものは次のようなものがある。

長所

- Native Speaker による英語のチェックが可能になる。
- 雑誌のマーケットを広げることができる。
- 論文の別刷発送も、要望があれば可能である。

短所

- 現在の和文のアナウンスメントが掲載できなくなる。
(→和文のページは別に印刷し、論文とは別に配布することになる。)
- 会則等の掲載による会員の管理が行き届かなくなるのではないか。

編集委員からは、これを契機に Journal の名称を変更し、より国際的なものに改めてはどうか、という意見も提出された。

今回討議された結果については、ワーキンググループにおいて改めて討論し、来年度の学会までに結論を出す旨、編集長より説明があり、閉会した。

(編集幹事：西村泰治)

III. 第9回国際人類遺伝学会議出席報告

第9回国際人類遺伝学会議は、1996年8月18日(日)～23日(金)の6日間ブラジル国リオデジャネイロ市の RIOCENTRO という会議場で、Newton E. Morton 会頭(英)、Henrique Krieger 事務局長(ブラジル)のもとで開催された。参加者総数は約1,600名、参加国三十数カ国、わが国からは国際委員会関係3名、シンポジウム招待者3名、ポスター演者4名を含め計18名(うち5名は同伴者)が出席した。松永 英・夫人、松田一郎・夫人、金子安比古・夫人、三輪史朗・夫人、林 昭・夫人、今泉洋子、辻 省次、大石道夫、有波忠雄、大倉興司、有馬栄徳、宗田さとしなどが主な人々であった。

私はシンガポールでの国際血液学会に事務局長として出席せねばならず、会期に重複があったため、開会式(18日)、国際人類遺伝学会議・常置委員会(19日開催)には出席したが、会議の後半は出席できなかったため、閉会式の議題については松永名誉教授から伺ったことをもとにして報告する。

常置委員会：Kare Berg 委員長(ノルウェー)、John J. Mulvihill 事務局長(米)のもとで19日昼開催された。残念ながら十分な人数が集まらず、したがって十分な審議は行われなかった。国際人類遺伝学会の開催頻度について、5年は間隔があきすぎるので、たとえば3年にしたら、という提案があったが、McKusick 委員(米)からは、わたしは第1回から出ており、5年単位で物事を計画することが頭に刻み込まれており、いまのままのほうが自分にとってはよい、といった発言もあり、従来通りにするとの結論となった。5年後(2001年)の次回会議開催国(地)については、現在立候補は Brisbane (オーストラリア) とインドからあるが、今後も応募をうけつけ、来年(1997年)委員の投票で決めることとなった。

常置委員会関連事項：“Guidelines on Ethical Issues in Medical Genetics and the Provision of Genetics Services” prepared by D.C. Wertz, J.C. Fletcher, K. Berg in cooperation with WHO (V. Boulyenkov), 1995 については、予め常置委員会委員に送られてきており、Berg, Boulyenkov 両氏より国際人類遺伝学会議の会期中に WHO、常置委員、執筆者が集まって広く意見を聞いたうえで、必要な修正をし、最終的なものに仕上げたいとの意向が伝えられていた。会議の日は会

期後半だったため、私は出席できず、松田一郎教授に代理出席していただいた。松田教授の話によると、出席者が多くなかったため、色々な意見は出されたが、なお文書等で意見をきき、そのうえで修正する作業にかかることになった由である。それが出るまではこの無修正文書は公にしないことが望ましい、というのが松田教授の出席後の意見であった。

閉会式：Dr. Mulvihill から常置委員会報告として、常置委員を出している国のリスト（従来と同じ）が示され、第10回国際会議は2001年に開催されることが決まったこと、来年1月3日までホスト国の名乗りを受け付け、来年夏頃投票の結果決定する（Am. J. Med./Hum. Genet. に掲載予定）との報告があった。なお、閉会式直前の Dr. Neel の“Looking ahead: Some genetic issues of the future”と題するプレナリーレクチャーに引き続いて Morton 会長より、予め配布されていた document 「中国の母子ヘルスケアに関する1995年6月発効の法律に対する声明文（案）」の趣旨について説明があり、これを国際人類遺伝学会の声明文として採択するか否かについて、出席者（約300名）に諮られた。1名から特定国を名指していることに異議がでたが、挙手採決の結果賛成多数でこの document は採択された（この声明文“Statement to be presented at Session 79, 5 pm, Friday, 23 August”は V. に掲載）。

その他：プログラムはよく編成されていたと思う。会議場が市内から遠いことは予期に反して出席者の苦労のもとになった。また、松永、松田、今泉先生のホテルではシャトルバスについての問題はなかったようだが、私のホテルはいくつかのホテルを回ったあとの最終のホテルに当たり、バスは満員で通りすぎていき、他の多くの国なら引き続いてすぐバスが手配されるのに全くそれはなかったため、待っていた会員は大変迷惑した。結局3人くらいで10 US ドルずつ出しあってタクシーに乗り40～50分かかる遠い会場へ遅れて辿り着く結果となり、出足が挫かれがっかりさせられた。治安についても問題はあり、夜は近くのレストランでも歩いて行かないほうがよいとのことであった。

（三輪史朗 記）

IV. 第10回国際人類遺伝学会議（2001年）の開催について

上記の会議開催国に日本が立候補するかどうかについては、札幌での本学会総会期間中の理事會、評議員會、総會ではかられ、笹月健彦理事を中心として検討しその結果で決定することとなっていたが、その後の慎重な検討の結果、もし決まれば同氏を会頭という形でお引き受けできるとの結論になった由の理事長からの連絡を12月19日にうけ、同日笹月理事に私より確認した。国際人類遺伝学会議常置委員会での立候補を申し出る期限は平成9年1月3日なので、直ちに secretary-general の Dr. John J. Mulvihill 宛に本学会として正式に立候補する旨の書簡を12月25日付で送ったことをお知らせする次第である。

（国際人類遺伝学会議常置委員会委員 三輪史朗）

V. Statement to be presented at Session 79, 5 pm, Friday, 23 August

The law of the People's Republic of China on Maternal and Infant Health Care became effective on 1 June, 1995. During the past year several Societies of Human Genetics and the plenary lecture of James Neel have expressed concern about some aspects of the law. We have only recently become aware of its provisions and international reaction to them and have tried to make a reasonable and sympathetic response. This has

been carefully prepared after consultation with Chinese and other colleagues with respect to the format that will be most likely to lead to fruitful discussion in the People's Republic:

The Ninth International Congress of Human Genetics recognizes the urgent need of the People's Republic of China to control the growth of its population, and it applauds the provision of the law that forbids sex identification of a fetus by technical means, "except that it is positively needed on medical terms." At the same time the Congress takes note that over provisions of the law conflict with the counseling principles accepted by most human geneticists. Genetic legislation has a tragic history that illuminates the danger in replacing informed reproductive choice by coercion. Genetic knowledge is growing rapidly, and the clinical, laboratory, educational and legislative infrastructure cannot be created in a few months or even years. We do not claim to have a final answer on how reproductive choice in a particular culture should be influenced by education and taxation so as to meet social needs, while maintaining other principles on which the society depends. However, we strongly urge that the implementation of genetic legislation be indefinitely delayed pending discussion of its many problems with the world's genetic community.

We hope that this will be endorsed by the participants of this Congress.

Newton E. Morton

Pedro H. Cabello

Henrique Krieger

Francisco M. Salzano

Bernardo Beiguelman

Eduardo E. Castilla

**VI. 4th International Symposium on Brain Dysfunction—Neurogenetic Disease:
From Molecule to Patient + International Prize on Brain Dysfunction Research**

Troina, Sicily (Italy), September 24-26, 1997

Sponsored by the Oasi Institute for Research on Mental Retardation and Brain Aging

Genetics is a rapidly growing field of medical science, which reveals molecular mechanisms of biological phenomena in health and disease. For this reason, we selected the topic "Neurogenetic Disease: From Molecule to Patient," for the 4th International Symposium on Brain Dysfunction to be held September 1997. Various aspects of neurogenetic diseases: phenotype, pathology, pharmacology, biochemistry, genetics, animal models, and treatment will be discussed. We hope that this international meeting will further promote research in this field in order to understand pathogenesis as well as to develop new therapeutic approaches to genetic diseases affecting the nervous system.

Three lectures per session will be presented by invited speakers. The last hour of each session will be devoted to free communication by other participants at the Symposium. The afternoon session on the second day of the Symposium (Thursday, September 25th) will be devoted to the presentation, by the author, of the paper awarded the Oasi International Prize for Brain Dysfunction Research. Deadline for the presentation of abstracts for free communications is July 15th, 1997.

The Oasi Institute invites the submission of original, unpublished research papers to compete for the 1997 award on the following subject: Neurogenetic Disease: From Molecule to Patient.

The Award: (a) US \$ 10,000; (b) invitation, with all expenses paid, to present the award-winning paper at the 4th International Symposium on Brain Dysfunction in Troina, Sicily (Italy) in September 1997; (c) publication of the manuscript in the journal *Developmental Brain Dysfunction*.

Deadline for the submission of manuscripts is April 30th, 1997. The rules for submission can be obtained from the Organizing Secretariat. More information is available on the Internet: <http://www.oasi.en.it/prize.htm>

Award Committee: A Scientific Committee will make the final selection. This committee will be assisted by members of the Editorial Board of *Developmental Brain Dysfunction* as well as by additional experts (if necessary). The members of the Award Committee are: Y. Suzuki, Tokyo and J.R. Villablanca, Los Angeles, CA.

Symposium Scientific and Organizing Committee: R. Ferri, Troina, Y. Suzuki, Tokyo, J.R. Villablanca, Los Angeles, CA.

Organizing Secretariat: Mrs. H. Cerro

4th International Symposium on Brain Dysfunction
Oasi Institute for Research on Mental Retardation and Brain Aging
I-94018 Troina (Italy)
Tel. ++39-935-93611
Fax. ++39-935-653327
e.mail hcerro@oasi.en.it